



ふじい けん
藤井 謙

総合研究大学院大学・遺伝学専攻 5年一貫制博士課程 3年次 (D3)

木村研究室 細胞建築研究室

大学院生からのメッセージ一覧は[こちら](#)▶



Q 遺伝研を知ったきっかけは？

大学院の進学先を探していた時に訪れた大学に、大学院生募集のポスターが貼ってあったのがきっかけです。自分の大学にはない、研究に熱心な雰囲気を感じたので、その後、自分でHPを見たりして情報を得ていきました。

Q どうして遺伝研を選んだのですか？

進路を考えていた時に、自分が大学院で学びたいことをリストアップしていました。もちろん研究したいという思いはあるのですが、どうしても英語を話せる環境に身をおきたいと考えていました。そこで、遺伝研では授業や講義が英語で行われることや、留学生と交流する機会があるということが魅力的で、その点が決め手になりました。SOKENDAI内でも他の研究所よりも遺伝研の雰囲気が自分にあっていたのもあります。そして、何回かイベントに参加していく中で、遺伝研が自分にとって心地よかったです。ここに行きたいと思って選びました。

Q 入試の思い出は？

過去の出題形式が自分のアイディアを出す形だったので、試験前はワクワクしていました。それで実際に問題用紙を開いてみる

と、既存の知識を問う形式になっていたのが、頭の中が真っ白になって試験時間の3時間があっという間に過ぎたのを覚えています。なので、試験後は不合格だと落ち込んでいました。それでも夜に次の日の面接のために準備して、なんとか挽回しようとしました。正直なところ不合格だと思っていたので、合格発表までは不安でした。

Q 木村研ではどのような研究をしていますか？

細胞内に存在する細胞小器官の1つである中心体について研究しています。中心体は細胞内で2つ1組あります。しかし、中心体は細胞が分裂期に進むにつれて複製されて、この2つ1組の中心体が2組になります。この2組の中心体は細胞内で互いに一定に距離を保ち、一定の距離を保つために反発し合っているように見えます。しかし、この反発力については未解明の部分が多く残っています。そこで、中心体同士で反発する力の存在を証明する研究をしています。

Q なぜその研究をやると思ったのですか？

動物細胞にある中心体が細胞内で様々な現象に関与していることが面白いと思い、中心体の研究をしています。細胞内で中心体が正確に複製され、複製されることによって中心体による二

極紡錘体の形成が補助され、細胞が2つに分裂できます。こういった過程を自分で観察してきて、中心体のまだ解明されていない役割を自分で発見できたら良いなと思っています。

Q 木村先生はどんな先生ですか？

尊敬できる「人格者」です。それだけでなく研究と教育に熱心で、大学院生の私にとっては目標でもあり、また良き理解者です。長所と短所の両方に目を向けてくれるので非常に助かります。私は今まで研究者はこう言ったものだとして一般的に言われる型にはまろうとして自分を見失い迷走していたのですが……。ある時、木村先生に「もっと自分自身を表現する方が良い」と言われました。その言葉が迷走していた自分を助けてくれました。今では自分の目指す研究者になるために行動できるようになりました。

Q 大学の研究室と比べて違いはありますか？/ どのところが違いますか？

D2の時に当時の指導教官が他の大学に移ったので、1年間その大学で学生生活を送っていました。そこで感じたのは、大学では他の研究室の人と交流する機会がほとんどなく、またセミナーなども年に数回でした。遺伝研では気軽に他研究室と交流できて、セミナーも毎週あるので、その違いは大きいのではないかと思います。また大学では英語を使う機会もほとんどなかったのですが、遺伝研では英語を日常的に使える環境があることを実感しています。

Q 学生生活はどうですか？

楽しいこともあれば苦しいこともあります。何か特別なことがあるわけではないのですが……。遺伝研では多くの方々からサポートしてもらえるので、不自由なく生活できている気がします。

Q 遺伝研の英語教育で役立ったことはなんですか？

セミナーや授業が英語で行われるので、自然と科学英語に慣れていった感じがします。また「[遺伝研メソッド](#)」という、研究成果を英語でどのように発表するかを教えてくれる遺伝研独自の講義があります。[授業](#)では英語のみを使って議論や発表をする練習があり、実践をしながら研究の場での英語の使い方を学べたのは大きな成長につながりました。

Q 遺伝研のオススメってどんなことですか？

立地と研究環境、留学生との交流などが挙げられます。三島は都心と比べると人も多くなく、自然に囲まれているため、人混みに疲れたら息抜きできる場所があることが良いところだと思います。また研究所も大学とは異なり、出入りする人もそこまで多くないため、落ち着きがあります。留学生との交流も異国の文化に触れる良い機会になるとと思います。

Q 帰宅後はどのように過ごされていますか？

趣味がいくつかあって、楽器演奏をしたり、プログラミングのコードを書いて遊んだりしています。それに加えて運動もしています。遺伝研の敷地内にいろいろなスペースがあるので気分によって場所を変えて運動できています。

Q 休日はどのように過ごされていますか？

週末はどちらか1日はバスケットボール部の練習を主催しています。それ以外では、友人と買い物に行ったり一緒にご飯を持ち寄って食べたりしています。

Q 三島の暮らしはいかがですか？/三島のおすすめスポットはありますか？

三島に住んで2年目なのですが、すごく気に入っています。おすすめスポットは、三島ではないのですが、清水町にある卸売市場です。すぐ近くに海があるので新鮮な魚が手に入り、自分で目利きしながら選んで、その魚を捌いて調理するのが楽しいです。

Q キャリアパスが多様化していますが、学位を取得したらどのような道へ進みたいですか？

研究者になりたいと思いつつも、いまの実力だと自分がどのようなスキルや適性があるかわからないので、今は考えないようにしています。D5になるあたりで考え始めようと思っています。ただし何か自分で作り出すことはしたいと思っています。

Q 後輩へのアドバイスは？

進学する場合、学部を卒業しても安直に今いる研究室に進学するのではなく、自分がやりたいことに近い研究をしているかを基準に、いろいろな研究室を見て回って探すことをお勧めします。できれば実際に研究室を訪れて、時間をかけて先生や先輩方と話す機会があると良いと思います。気をつけた方がいいと思うこ

とは、指導教官との相性や周囲の研究環境は学生生活に非常に影響を与えるので、じっくりと時間をかけて見極めることを強くお勧めします。

※ 2020年3月時点

■ 関連リンク

◇ SOKENDAI

<https://www.soken.ac.jp>



◇ 過去の入試問題

<https://www.nig.ac.jp/nig/ja/phd-program/admissions-top/admissions/general-admissions/past-exams>



◇ 遺伝研メソッド

<https://www.nig.ac.jp/nig/ja/research-infrastructure-collaboration/nig-method>



◇ 遺伝学専攻の開設授業科目

<https://www.nig.ac.jp/nig/ja/phd-program/courses-top/courses-2>

